

セガによる かなり独特のリズムアクション。その雰囲気は笑わずにはいられない？

～ スペースチャンネル5

機種	ジャンルめいたもの	難易度	発売年	備考
			1999	(1)
			2002	「パート2」

"音楽ゲー"といわれるジャンルが世の中には存在します。その走りは、やはりコナミの「ビートマニア」を筆頭とする"ビーマニシリーズ"でしょう。正直、この Wiki で取り上げるべきも、まずはそちらなのかもしれません。・・・が、敢えて私はこのタイトルを御紹介します。

このゲームはセガが発売したリズムアクションです。形式としては「十字キー(上下左右)」と2ボタンの組み合わせがお手本として流れるので、それを正確にトレースしていく・・・というもののになります。

お手本の聞き違いさえなければ、一回で覚えられる程度のフレーズの連続ですから、頑張れば先に進めます。・・・といいつつ、ボタンが6種類になると意外に覚え切れないことも多いのですが、そこはゲームですから～。

しかし、このゲームの突っ込みどころは、そんなリズムアクションではありません(何

■ "スペース"をつければ解決か？！

時代は25世紀。人類が宇宙に飛び出して久しいようです。主人公は、シチョーリツ低迷にあえぐスペース放送局 チャンネル5の新人リポーター うらら です。ここ最近、宇宙を騒がしているモロ星人を、彼女は体当たりで取材します。

モロ星人は、突然 現れて、次々に 周囲の人間に光線を浴びせます。この光線を浴びた人間は、踊らずにはいられなくなるのです。とんでもない事件です。ところが、リポートにやってきた うららが、モロ星人と同じように踊ると、それでモロ星人を倒すことが出来、踊り狂う人々を救出することすら出来たのです。

こうして、うらはら事件をリポートしながら、華麗なステップで人々を救出し、シチョーリツをどんどん稼ぎつつ、事件の真相に迫っていきます。

つか、プレイすれば分かると思いますが、うららのユルさは半端じゃないです。

さらにゲームを進めれば、ライバル局のリポーターも入り乱れて賑やかになっていきます。

ゲーム的には巧くリズムに乗って、人々を助け出していければ、シチョーリツ(誤変換ではなく、これでゲーム的には正しいのです)が上がり、ミスをすれば下がるというシステムです。シチョーリツが0%になったらゲームオーバーです。

ちなみに助け出した人々は、その後 うららの後について踊るバックダンサーになってくれるので、助ければ助けるだけ賑やかになっていきます。また、オプション画面では、助け出した人の一覧を確認でき、たまに彼らから手紙が届いたりするというギミックもあり、なかなか面白いです。

面白いのですが・・・助け出した人の名前を見ると・・・「スペース観光客」「スペース小学生」「スペース作業員」などなど・・・どうやら、この世界では"スペース"を付ける法律でもあるようです(笑)。しかし、この見えない法はあらゆるところに浸透しているのです。

いかにもセガ・・・というわけか、ゲーム終盤でうらははまるでマイケル・ジャクソンにそっくりな「スペースマイケル」を救出します。そして、ライバル局のリポーターたちとも肩を並べて、この事件の黒幕と、うらはは対決することになります。

カルト的な人気を博したのか、DC が倒れた後、PS2 で「パート 2」が発売されました(これに合わせて前作も PS2 で発売されています)。こちらはまさに続編です。もちろん、スペースマイケルも登場・・・つか、殆ど主役と同じ扱いで活躍します(笑)。前作もそうですが、御本人のお声を収録して使っているらしいですね。

前作のシナリオをそのまま引継ぎ展開していくストーリーもさることながら、音楽のバリエーションも増えて、とてもノリの良い粒ぞろいの楽曲になっていますので、「1」を楽しめた方は、ぜひとも「パート 2」もプレイしてみてください。